

用語辞典〔第2版〕集録用語改訂

(日本医学会からの報告に基づく修正)

栄養・食糧学用語辞典内の「優性遺伝」「劣性遺伝」に代わる推奨用語は、それぞれ「顕性遺伝」「潜性遺伝」とする。

(P500 新規集録)

バイオアクセシビリティ [bioaccessibility] 特定の栄養素の食品中含量に対する腸管吸収可能な形態の量の割合のこと。一般に、アミラーゼを含んだ人工唾液、ペプシンを含んだ人工胃液、胆汁とパンクレアチンを含んだ人工腸液を用い、インビトロで連続的に消化後に限外濾過などを行うことによって腸管吸収可能な形態の量を推定する。可給性とも呼ばれる。

(P132 解説文修正)

カリニ肺炎 [carinii pneumonia] =ニューモシスチス肺炎

(P216 解説文修正)

健康寿命 [healthy life expectancy] WHO(世界保健機関)が World Health Report 2000 で加盟国の健康寿命を発表して以来、健康水準の指標の一つとして活用されるようになった。健康を害した状態で生きる期間を考慮して算出された寿命のこと。日本でも、「健康日本 21 第2次中間報告書」の中で“日常生活に制限のない期間の平均”と定義され、そうした健康で障害のない期間、いわゆる健康寿命の延伸が国民健康づくり運動の目的の一つとされた。=活動的余命

(P236 見出し語の英語表記修正)

鉤虫症 [ancylostomiasis; hookworm infection] 鉤虫が経口または経皮的にヒトに感染し、幼虫の体内移行及び成虫の腸内寄生によって症状を示す病態。十二指腸虫症ともいう。腹痛、下痢等の腹部症状が主症状である。→鉤虫性貧血

(P236 解説文修正)

口蹄疫 [foot and mouth disease] ウシ、ブタ等鯨偶蹄目動物にみられる急性ウイルス性伝染病。病原ウイルスはピコナウイルス科に属するRNA ウイルスである。ヒトへの感染はまれで、発生は集団的に流行し、日本では海外悪性感染症の一つに挙げられる。

(P236 見出し語削除)

口蹄病 [~~foot and mouth disease~~]

(P236 解説文修正)

後天性免疫不全症候群 [acquired immunodeficiency syndrome, AIDS] ヒト免疫不全ウイルス(human immunodeficiency virus, HIV)の感染によって生じる。エイズともいう。HIV はCD4をもつ細胞(ヘルパーT細胞, マクロファージ, 脳神経細胞, グリア細胞等)に好んで感染し、その機能を障害、破壊する。特に CD4T

細胞が機能不全に陥ると IL-2 (インターロキシン 2) 産生障害によりキラーT 細胞の誘導, NK 細胞の増殖・活性化が阻害され, また, IFN (インターフェロン γ) 産生障害によりマクロファージの活性化が損なわれる。こうした一連の反応により, 生体は広範な免疫不全に陥り, 一般感染症のほか, ニューモシスチスカリニ肺炎 (カリニ肺炎), 真菌等の日和見感染, カボジ肉腫, 亜急性脳炎等を続発する。

(P239 解説文修正)

高マグネシウム血症 [hypermagnesemia] 血清中のマグネシウム濃度が異常に高い病態。マグネシウムは ATP を基質とする解糖系に関与する酵素の補酵素として作用している。症状は反射低下, 低血圧, 筋力低下, 呼吸抑制, 心停止等である。

(P247 解説文修正)

骨異栄養症 [osteodystrophia] = 骨ジストロフィー

(P248 見出し語の英語表記・解説文修正)

骨形成異常症 [bone dysplasia] = 骨ジストロフィー

(P248 解説文修正)

骨ジストロフィー [osteodystrophy] 代謝性骨異常。骨異栄養症, 骨形成異常症ともいう。ビタミン D の代謝異常と副甲状腺の機能亢進によるカルシウムとリンの代謝障害により小児ではくる病, 成人では骨軟化症, 骨粗鬆症等を来す。

(P256 見出し語・解説文誤植修正)

コレステロールエステル転送タンパク質 [cholesteryl ester transfer protein, CETP] 血漿中に存在する糖タンパク質であり, HDL 中のコレステロールエステルを VLDL 及び LDL にトリアシルグリセロールと引き替えに輸送する。マウスやラットでは CETP 活性が検出されないで, ヒトとラットやマウスのリポタンパク質代謝は大きく異なる。ヒトでは CETP 欠損症があり, 高 HDL コレステロール血症の原因となる。

(P311 解説文修正)

寿命 [life span; longevity; duration of life] 命のある間の長さ。ヒトの寿命 (平均寿命) は老化と密接に関係しており, 遺伝的要因と環境要因の影響の程度により寿命の長さが決まる。近年, 平均寿命 (何歳生きられるか) のほかに健康寿命 (日常生活に制限のない期間の平均) の考えが WHO から提唱されている。

(P350 見出し語・解説文修正)

膵リパーゼ欠損症 [pancreatic triacylglycerol lipase deficiency] 膵リパーゼが欠損すると消化管における脂肪の分解が行われず, 脂肪を摂取すると脂肪便となって排泄される。

(P379 解説文修正)

先天性代謝異常症 [inborn error of metabolism] 遺伝子変異により酵素などのタンパク質が量的・質的異常をきたし, 代謝産物が異常蓄積または欠乏することで生じる疾患群。アミノ酸、有機酸、尿素、脂肪酸、糖質、核酸、金属、ビタミンなどさまざまな代謝異常症があり, 多様な臨床症状を呈する。日本において頻度の高いもの

や早期の治療介入が必須なものに対して新生児マススクリーニングが実施されている。

(P394 解説文一部削除)

ダイジン [daidzin] $C_{21}H_{20}O_9$, 分子量 416.38。イソフラボンの配糖体の一つで、ダイゼインの 7β -グルコシドである。ダイズ、クズ、イナゴマメに特異的に含まれる。ダイジンを摂取すると、加水分解されて糖が外れたアグリコンであるダイゼインとなる。

(P416 見出し語削除)

痴呆 [~~dementia~~] = 認知症

(P409 見出し語削除)

タンパク質 [~~たんぱく質~~]・**カロリー欠乏症** [~~protein-calorie malnutrition, PCM; protein-calorie deficiency~~]

(P409 解説文修正)

タンパク質 [**たんぱく質**]・**エネルギー栄養失調症** [protein energy malnutrition, PEM] = タンパク質・エネルギー欠乏症

(P409 解説文修正)

タンパク質 [**たんぱく質**]・**エネルギー欠乏症** [protein-energy deficiency; protein energy malnutrition] タンパク質とエネルギー欠乏のために、痩せを呈し、腹部は水分貯留のため膨満する。肝腫大や浮腫、血圧低下、徐脈、低体温を伴う。免疫能の低下や創傷遅延が起こる。

(P432 解説文修正)

低カリウム食 [low-potassium diet] 果物や生野菜等カリウムの多い食品の摂取を制限(カリウム摂取量 1.5～2.0 g/日以下)した食事。腎不全、アシドーシス、外傷、血腫等により、高カリウム血症となった腎不全患者等に行う。

(P483 見出し語修正、解説文修正)

ニューモシスチス肺炎 [Pneumocystis pneumonia] 真菌の一種であるニューモシスチス・イロベチイ (Pneumocystis jirovecii)による感染症。かつてはニューモシスチスカリニ肺炎とも呼称した。肺胞内で増殖すると肺炎を起こす。宿主の免疫能が正常であれば不顕性感染であるが、免疫不全状態である患者では容易に発症する。とりわけエイズ患者での発症が注目されている。→後天性免疫不全症候群

(P532 解説文誤植修正)

ビタミン K [vitamin K] 脂溶性ビタミンの一つ。メチル化されたナフトキノンとこれに結合する炭化水素の側鎖から成り、側鎖の構造の違いによりビタミン K_1 (フィロキノン)とビタミン K_2 (メナキノン)に分けられる。ビタミン K_1 の側鎖はフィチル基から成る単独の物質である。ビタミン K_2 には異なる数のイソプレニ単位で構成されるプレニル基の側鎖から成る多くの同族体があり、メナキノン・ n (n =イソプレニ単位の数)と表記される。前者は植物性食品や植物油に含まれ、体内でビタミン K_2 であるメナキノン・4 に変換される。多様なビ

タミン K₂ が微生物により合成され、発酵食品に多く含まれており、納豆にはメナキノ-7 が多く含まれている。また、腸内細菌により合成されるビタミン K₂ も宿主に利用される。さらに、動物性食品も微生物由来のビタミン K₂ 同族体やビタミン K₁ から体内で変換されたメナキノ-4 を含んでいる。摂取されたビタミン K は、食事の脂質とともに吸収され、主な蓄積部位である肝臓に取り込まれる。ビタミン K は、 γ -グルタミルカルボキシラーゼの補酵素として、血液凝固因子やオステオカルシンをはじめとするいくつかのタンパク質のグルタミン酸残基の γ -カルボキシル化による翻訳後修飾(活性化)に関与する。この作用以外に、核内転写因子であるステロイド・生体異物受容体(SXR)のリガンドとして機能し、骨形成能を高めるとされている。「日本人の食事摂取基準(2020 年版)」では、分子量のほぼ等しいビタミン K₁ とメナキノ-4 についてはそれぞれの重量を、また、分子量が大きく異なるメナキノ-7 はメナキノ-4 量に換算して求めた重量の合計量をビタミン K 量としている。→ γ -カルボキシル化, 翻訳後修飾, γ -グルタミルカルボキシラーゼ, 血液凝固因子, オステオカルシン, マトリックスグラタンパク質

(P570 解説文脱字修正)

フルクトキナーゼ欠損症 [fructokinase deficiency] フルクトキナーゼが遺伝的に欠損していると、食事由来のフルクトースをフルクトース 1-リン酸に変えることができないので、血中フルクトースが上昇し、尿中にも排泄される。本態性果糖尿症ともいう。常染色体性劣性遺伝であるが、症状は現れないので、治療の対象とはならない。

(P613 見出し語脱字修正)

本態性果糖尿症 [essential fructosuria] =フルクトキナーゼ欠損症

(P642 解説文修正)

メンケス症候群 [Menkes syndrome] → メンケス病

(P642 見出し語新設)

メンケス病 [Menkes' disease] 銅の吸収障害を引き起こす伴性劣性遺伝疾患で男性にみられ、特有な毛髪異常、知能・身体の発育遅延、低体温、中枢神経変性を引き起こす。